

令和6年度

加古川中流域整備促進に関する

要 望 書



地元役員と行政職員による整備状況の確認（加古川・西脇市津万地区）



沖田・和田井堰の完成（杉原川・西脇市西脇周辺）

加古川中流域整備促進期成同盟会
(兵庫県 西脇市・多可郡多可町)

要 望 書

加古川中流域（西脇・多可地域）の整備促進について

平素は、西脇市と多可町の治水行政に格別の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

近年、地球温暖化に伴う気候変動等の影響から全国各地で想定をはるかに超える豪雨による甚大な災害が頻発しています。平成30年7月豪雨では、当地域でも初めて大雨特別警報が発令されましたが、平成16年台風第23号を契機とした河川激甚災害対策特別緊急事業等による各河川の抜本的な治水対策事業等の効果により、整備された地域では大きな被害は免れ、河川整備の重要性を実感しました。しかし、未だ加古川中流域には未改修区間が残っており、地域によるため池・校庭貯留や田んぼダムなどの総合治水への取り組み等を含め、流域治水による浸水被害軽減に取り組んでいるところですが、地域の安全・安心の確保や地域の活性化のためには、さらなる治水事業の推進が必要です。

また、平成28年に、国土交通省、兵庫県、加東市、西脇市からなる「加古川中流部河川整備推進協議会」を設置し、平成29年度から概ね10年間で重点的に取り組む治水対策をとりまとめていただきました。これに基づき、国土交通省では、加古川下流域の河川改修を推進していただくとともに、県では、西脇市内の加古川河床掘削や、杉原川の沖田井堰・和田井堰の改築完了など、関係機関が連携を図りつつ、上下流バランスに配慮した治水対策を着実に進めていただいています。「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」等により、地域の河川改修等が加速化すると共に、激甚化する自然災害にそなえた堆積土砂撤去や立木伐採が進められ、安全度の向上、治水効果の早期発現が期待されるところです。

浸水リスクの低減は、地域住民の安全・安心を確保するとともに、商工業施設の新規立地や農業の振興、観光客の増加など地域の活性化につながり、持続可能で魅力ある地域創造に欠かせないものです。

つきましては、地域住民の治水事業に対する強い思いに応えるべく、下記の要望事項について格段の御配慮を賜りますようお願い申し上げます。

要 望 事 項

1 防災・減災、国土強靱化の推進に必要な予算・財源の確保

近年大型化する台風等の自然災害の頻発化・激甚化を踏まえ、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策について、最終年度となる令和7年度においても、必要な予算・財源を例年以上の規模で確保すること。

能登半島地震などを踏まえ、国土強靱化実施中期計画の策定を早期に着手し、令和6年度内に完了させ、必要な予算・財源を別枠で確保すること。

2 治水事業に必要な予算総額の確保と流域治水事業の推進

事前防災対策を着実に進めるため、大規模災害対応に必要な事業費を確保した上で、直轄河川や県管理河川の治水事業に必要な予算総額を安定して確保すること。

また、関係者が取り組む「流域治水」を推進すること。

3 緊急防災・減災事業債等の期間延長

防災・減災、国土強靱化対策に取り組むため、緊急防災・減災事業債（R7年度まで）、緊急自然災害防止対策事業債（R7年度まで）、緊急浚渫推進事業債（R6年度まで）の事業期間を延長すること。

4 加古川下流域（国管理区間）の整備推進

加古川流域全体の治水安全度向上に向け、加古川下流域（国管理区間）の整備を推進すること。

5 加古川中流域（西脇・多可地域）の整備促進

(1) 加古川 河床掘削（西脇市堀町～黒田庄町小苗地内）

(2) 杉原川 沖田井堰上流の河床掘削・護岸整備（西脇市西脇～郷瀬町地内）

6 支援体制の充実等

広域的な大規模自然災害時において、迅速かつ円滑な復旧等に資する、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）の派遣や国による権限代行等が速やかに実施できる体制・機能の拡充・強化を図ること。

令和6年10月7日

加古川中流域整備促進期成同盟会

会長 西脇市長 片山象三

加古川中流域整備促進期成同盟会名簿

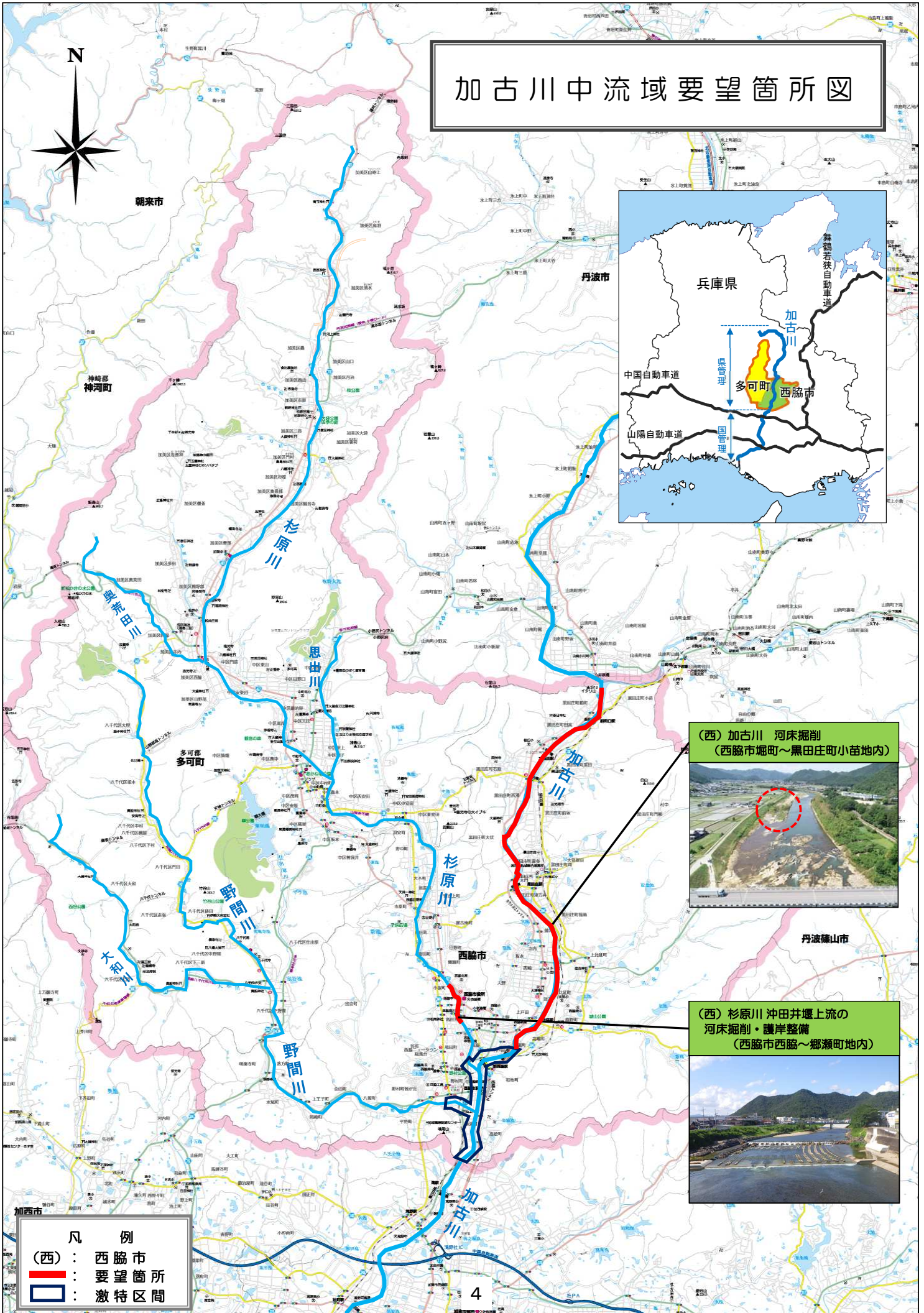
(会 員)

市町名	職 名	氏 名	役 職
西脇市	市 長	片 山 象 三	会 長
	議 長	高 瀬 洋	理 事
	総務産業常任委員会委員長	村 井 正 信	監 事
多可町	町 長	吉 田 一 四	副会長
	議 長	日 原 茂 樹	理 事
	総務まちづくり常任委員会 委員長	藤 本 一 昭	監 事

(顧 問)

職 名	氏 名
兵 庫 県 議 会 議 員	内 藤 兵 衛

加古川中流域要望箇所図

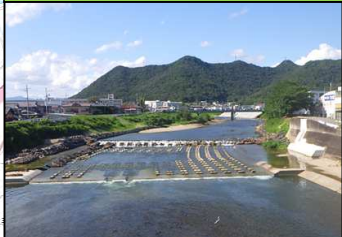


- 凡 例
- (西) : 西脇市
 - : 要望箇所
 - : 激特區間

(西) 加古川 河床掘削
(西脇市堀町～黒田庄町小苗地内)



(西) 杉原川 沖田井堰上流の
河床掘削・護岸整備
(西脇市西脇～郷瀬町地内)



加古川水系における近年の主な災害

◇平成 30 年 7 月豪雨



(一) 加古川周辺 浸水被害
(西脇市黒田庄町前坂)



(一) 加古川周辺 浸水被害
(西脇市黒田庄町大伏)



(一) 杉原川 水位上昇
(西脇市西脇)

◇平成 30 年 7 月豪雨



(一) 杉原川
増水による堤防崩壊
(多可郡多可町加美区豊部)

◇平成 29 年 8 月豪雨



(一) 杉原川
増水による法面崩壊
(多可郡多可町加美区熊野部)



(一) 大和川
増水による護岸崩壊
(多可郡多可町八千代区上三原)

◇平成 23 年台風 12 号



(一) 大和川
河川兼用護岸道路崩壊
(多可郡多可町八千代区大和)

井堰改築により水位が約2m低下（令和5年台風7号）

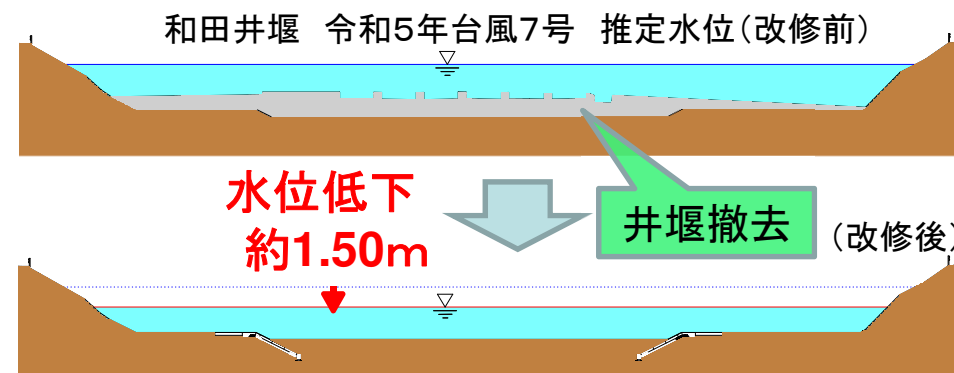
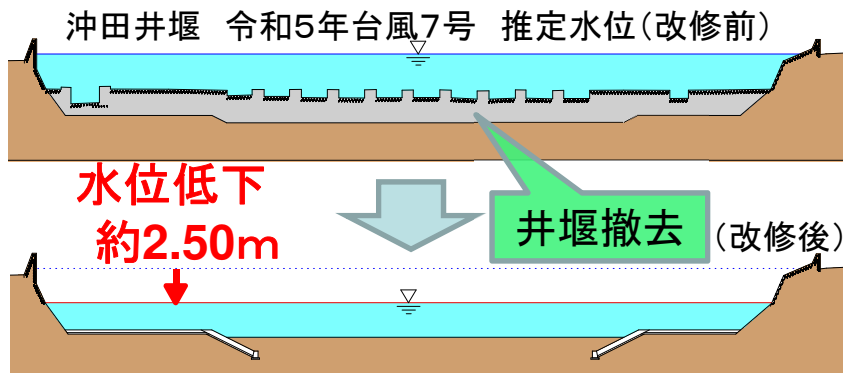


事業目的

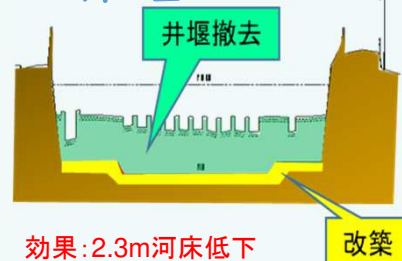
・流下能力向上のため、固定堰をポンプ施設に改築するとともに河道掘削を行う。

事業効果

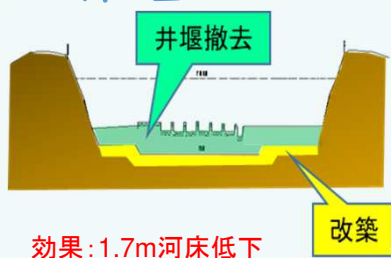
- ・5か年加速化対策の活用により、前倒して井堰改築が完了。
- ・令和5年台風7号において、平成25年出水を上回る規模の雨量を記録したが、治水対策による水位低下（沖田井堰で約2.5m、和田井堰で約1.5m）により、家屋浸水を解消。



沖田井堰

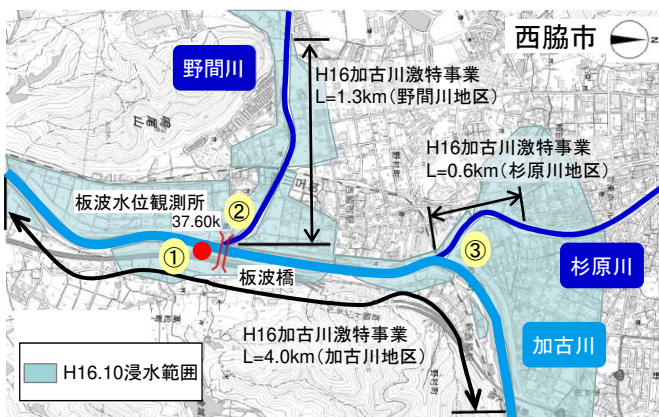
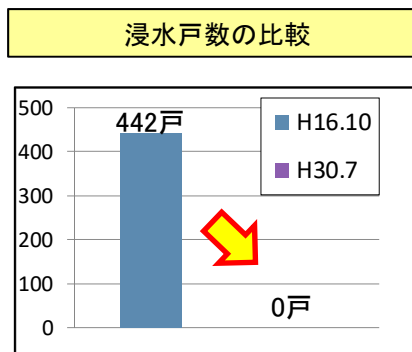
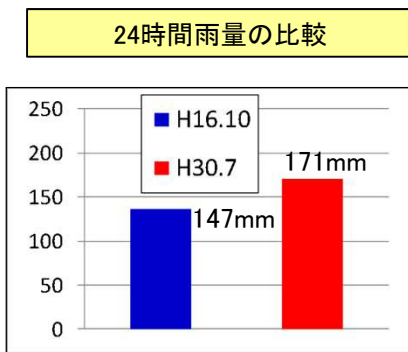


和田井堰



平成30年7月豪雨における整備効果(加古川激特事業区間)

- 加古川水系加古川(兵庫県管理区間)、杉原川、野間川においては、平成16年10月台風第23号の再度災害防止対策として、激甚災害対策特別緊急事業を実施。
- 平成30年7月豪雨による出水では、西脇雨量観測所で平成16年10月出水時の約1.3倍の雨量が観測されたが、激甚災害対策特別緊急事業などにおける河道改修等により、板波水位観測所(距離37.60k)においては水位を約2.0m低下させ、野間川では堤防越水による浸水被害を防止したと推定される。

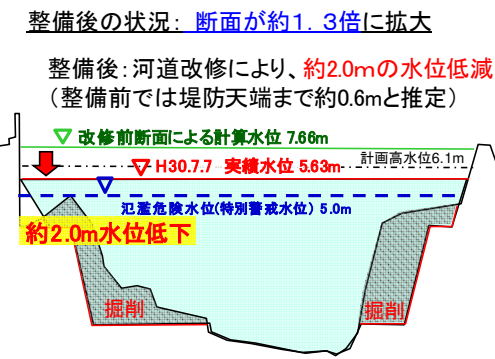


被害軽減効果

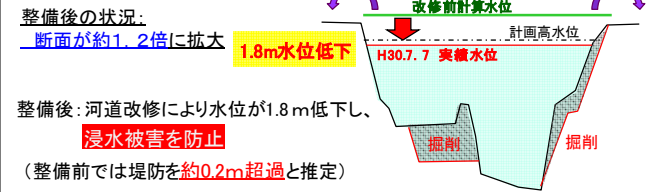
37.60k横断面図 (板波水位観測所) など

整備前に比べて、水位が最大約2.0m低下し、洪水を安全に流下できました。

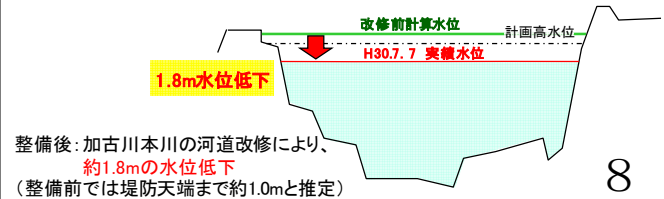
① 整備効果【加古川(板波地区)】



② 整備効果【野間川(加古川合流付近)】



③ 整備効果【杉原川(加古川合流付近)】



- H16加古川河川激甚災害対策特別緊急事業
 - ・延長: 5.9km(加古川、杉原川、野間川)
 - ・内容: 掘削、築堤、護岸、橋梁等
 - ・期間: 平成16年度～平成22年度

野間川では河道改修により、堤防越水による被害を防止したと推定

平成30年7月豪雨における整備効果 (西脇市黒田庄町福地地区)

- 西脇市黒田庄町福地地区では、平成25年台風第18号で、約20haが浸水し、道路やJR線路の冠水のほか、住宅では床上浸水4戸、床下浸水31戸と大きな被害が発生。
- このため、「ながす」と「ためる」と「そなえる」をあわせた**総合治水**を基本とした、**地域と一体となった浸水対策計画**を策定し、平成28年度に整備を完了。
- 平成30年7月豪雨による出水では、浸水被害のあった平成25年の台風第18号を上回る累加雨量であったが、地元の**ためる対策(ため池事前放流、田んぼダム、校庭貯留)**も加わり、住宅の浸水戸数は「ゼロ」になった。



河川事業への地域の声 (加古川の堆積土砂撤去の取組について)



〔西脇市津万地区の皆さんの声〕



- 平成30年7月豪雨で浸水被害に遭った。
この度の河川の堆積土砂撤去は、大変ありがたい。
- 今後も、上下流でも樹木伐採や土砂撤去などの取組を引き続きお願いしたい。
- 地域でも市と内水対策などの勉強会を重ねており、防災減災の取組を進めたい。

(令和5年度‘水の勉強会’の様子)



(工事前)



(工事後)

- 令和元年度堆積土砂撤去
- 上下流でも計画的に取組中
- ★ 対策により局部的な水位上昇発生を回避

激特事業により浸水リスクが低下した中心市街地に市役所を移転

市役所新庁舎及び市民交流施設を建設
(令和3年5月オープン)

市役所新庁舎及び市民交流施設

H16災害 浸水区域

三
五
川
一

国道175号

中心市街地の活性化と
コンパクトシティの形成を推進する

市役所新庁舎及び市民交流施設

浸水リスクが低減した地域に工場公園を造成

- 大きな被害を受けた畑谷川が整備され、地域の浸水リスクが大幅に低減
- 浸水リスクが低減した地域に工場公園を造成、西日本の拠点となる工場が進出



S58年災害

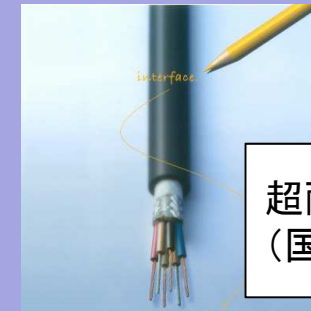


上比延工場公園 (H28)



グラスアイスを西日本全域のセブンイレブンに出荷。

(株)福電



超耐熱電線を製造 (国内で3社のみ)

急変する時代とユーザーニーズをつなぐ。 Connect volatile trend of the times and users' needs.

日清ヨーク(株)



日清食品グループの乳製品・清涼飲料メーカー。西日本初の生産拠点。



河川整備が、豪雨に効果を発揮

- 多田川中上流治水対策事業が平成30年6月に完成し、多可町松井小学校にて環境体験学習などを開催。
- H30.7月豪雨(累積466mm)では、前回のH25.9月豪雨(累積206mm)を上回る豪雨となったが、事業効果を発揮し地域住民から安心の声をいただいた。

平成25年9月豪雨



平成30年7月豪雨



平成30年7月豪雨では水位の上昇が抑えられ事業効果を発揮

環境体験学習水辺の生き物や河川堤防について 2018.6.20
松井小学校3年生 堤防に芝張り作業体験

